



# だいじょうぶ、だいじょうぶ

〈北海道〉 岡田 美優 23歳

くんだよ」と話してくれました。

私はその日の仕事終わりに、その絵本を本屋さんに見に行きました。その数日後、患者さんは亡くなってしましましたが、亡くなる前日、私は患者さんに「だいじょうぶ、だいじょうぶですよ」と伝えると、小さな声で「ありがとうございます」と言つてくれました。

私は看護師2年目になりました。今では「よし!」の代わりに心の中で「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と心を落ち着かせるようにしています。すてきな言葉を掛けてくれた患者さんに感謝の気持ちを忘れずに、自分、そして患者さんを安心させるために「だいじょうぶ」と心の中で思つたり、あるいは患者さんに伝え、今日も仕事をがんばっています。

たことを申し訳なく感じました。

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と、患者さんに言われたことがあります。看護師1年目の私は患者さんと接するとき、自分を落ち着かせるために確認したことに対し「よし!」と声を出していました。患者さんにとっては、確認しては「よし!」と言われ、あまり良い気持ちはしないかもしれません。が、焦る自分を落ち着かせるために、つい口に出してしまつていきました。

その患者さんは、私が1年目であり、気持ちを落ち着かせるために「よし!」と言つていることを察してくれ、「だいじょうぶ、だいじょうぶ。焦らなくていいよ。私は、ただベッドにいるだけだから仕事して」と言つてくれました。私はその言葉にとても救われました。だが、患者さんに焦りを見せてしまつたが、患者さんに焦りを見せてしまつたから孫がじいちゃんに『だいじょうぶ、だいじょうぶ』って伝えに行